新学期がスタートして、１ヶ月が経ちました。

おふいやり

№364
令和５年５月 10 日発行
社会福祉法人円福会
円福寺愛育園
園長　　藤本光世

新年度　四月を乗り越えました

園長　藤本光世

今年度は、中学生となった子が４人、高校生となった子が７人、そこへもってきて３月に入所した子が３人、一時保護の子が３人、新任職員が３人と合計 20 人もが新しい生活を迎えました。いつも、4 月は新しい生活になり子どもたちの生活が安定しない傾向があったのですが、今年はそれがさらに顕著で、ホーム長は心配な朝に来てくれていました。ありがとうございます。

少しずつ、そして少しずつ指導が通って、生活が安定してきたことが感じられています。連休の行事を通して、みんな愛育園の子になって欲しいと思います。愛育園の職員に成長して欲しいと思います。

第３回　愛育会見学会

4 月 30 日に愛育園見学会を開催しました。愛育園を知ってもらい分かってもらう学生さんを増やすことが、応募に結び付くと２年前から始めました。

私は、愛育園のような中舎制園舎により、集団的力動を使って養育することこそ、社会的養護の目的にかなっていることを話そうと思いました。少し厳しい言い方ですが、里親制度や小舎制はいずれ破綻すると話し、その理由を三つ挙げました。

1.　「〇〇したら、△△になる」は、△△はしないということである。
2.　仕事を開くことこそ重要である。
3.　直接支援職員と調理職員の分業でこそ子どもに最善の利益をもたらすことができる。

それぞれについて説明します。

1　について

このことは、もちろん家庭的養護推進計画で、『里親委託や小舎制施設が子どもの最善の利益』と言っている人に対する反論です。

私は保護司をしています。薬物依存症の対象者（保護観察期間５年）を持ち、対象者を知るために依存症について学びました。依存症の方は、嘘八百どころか嘘八百万でいつもどうやって嘘をつこうかと考えているのです。（「やめられない　ギャンブル地獄からの生還」（帚木蓬生）集英社）究極の嘘は「明日になったら必ずやめるから、今日を最後とするから、許して」です。これは、永遠にやめないと宣言しているに等しい。明日になると、明日が今日になり、明後日が明日になる。だから、やめない。ところが、お人よしは騙されてしまう。

だから、「里親委託とか小舎制施設」という前提があって、そうなれば子どもの最善の利益ですよといっている人は、子どもの最善の利益となることをしないということです。「今、出来ないで、いつできるのか。」です。きれいな言葉で、今という現実から逃げてはいけません。そして、そうすれば国の施策と叶い、お金を貰えると動いてはいけません。今を疎かにしたことの被害は子どもと職員が受けるのです。

2　について

この仕事は、子どもの心に対して職員の心が働きかける仕事です。学校では教えてくれません。唯一の学ぶ方法は、子どもとぶつかってみて、他の職員の方法を見て、仕事の中で勉強するのです。自己流では失敗して、『人罪』になってしまうのです。子どもを間違った導き方をしてしまう。（『人罪』については、圓福５月号の養育随想をご覧になってください。）

なぜ、自己流の子育ては人罪になってしまうのでしょう。それは、子どもの心が乳幼児期に愛着形成がなされていないために、まず安全・安心を確認して、職員との間に愛着の再形成をしなければならないからです。心は、自分で形成するのです。他人が形成することは出来ません。病気も同じですね。薬はお助けマンで、治すのは自分です。心も同じです。すべての行動は心から生じます。（『心は病気』（アルボムッレ・スマナサーラ）　ＫＡＷＡＤＥ夢新書）子どもの心の形成のお助けマンこそ私たちの仕事です。

愛着形成は子どもの心の問題です。子どもが自分で愛着の再形成をしない限り、問題は解決しない。ところが、心は頑固ですからこれがとっても難しいことは、きっとお分かりになっていただけるでしょう。自己流ではできないのです。一人ではできない。みんなで正しい方法（愛育園のように）で力を合わせて、やっとできるかできないかなのです。でも、やらなければならない。その方法が仕事を開くことなのです。仕事を閉ざすと行き詰ります。職員はどうしていいかわからなくて、子どもを苦しめるか、子どもの言いなりになるか、バーンアウトします。仕事を開くことがいかに重要であるか、そしてそのためには集団養育がキーポイントであることはお分かりになっていただけると思います。

心にどうやって働きかけたらいいでしょう。それは、子どもが夢中になる機会をたくさんつくることです。その時、子どもは心を開きます。子どもと一緒に全力でかかわって、心を開いた機

会を職員が共有することこそ、職員の心と子どもの心が感応同行して、心が変化するかも知れないのです。頑固な心と向き合うことこそ（子どもの心は頑固ですし、職員自身の心も頑固です）、この仕事の中心であることを知ってください。

里親委託や小舎制施設での養育が子どもの最善の利益であると唱えている人は、「そうなればいいなあ」とか「きっとそうだろうなあ」と考えているだけで、実際にやってみたら「そうなった」ではないのです。ずるいです。愛育園の実践は「そうなった」ことを子どもの事実で示しています。それは、きっと今日の交流で分かったでしょう。

3　について

この仕事が子どもの心の形成であることを知れば、食事の重要性はお分かりになるでしょう。それは片手間で出来る仕事ではありません。季節に合った、行事に合った、誕生日には誕生日の、心のこもった手作りの食事を用意してあげることこそ、子どもの心の形成には重要です。それは、専門家でなければできないのです。

子どもの心に働きかける直接支援職員の仕事も同じですね。日々、そして時々刻々を全力で子どもたちと関わってあげることこそ重要でしょう。

食事の支度を手伝うことが、子どもの将来にとって重要で最善の利益であると考えている人はいませんか？そんなことを子どもが喜ぶでしょうか。手伝ってほしいという大人の願望ではありませんか。自分の思うようないい子にしようと思っていませんか。「子どものため」と言いながら、よくよく考えると「自分のため」である社会的養育従事者がとても多いことを知ってください。そして自分を反省してください。顧みてください。その被害を被るのは子どもなのです。

とっても良い感想をいただきました。紹介いたします。

私は大学の講義で「現在は里親、小舎制に移行している」ということを聞き、小舎制の利点についての情報しかもっていなかった。今回、円福寺愛育園さんで中舎制についての話を聞き、考え方が変化した。「里親・小舎制にすれば、子どもの最善の利益が実現する」という言葉に疑問を抱かず、受け入れていた。私は子どもの最善の利益とは、今、心が満たされていることだと思う。それを実現するために必ずしも里親・小舎制である必要はない。むしろ、円福寺愛育園さんのような教育方針であることで、実現することがあると思う。

交流会では、子どもたちの様子から、虐待を受けていたりと辛い過去があるようには見えなかった。どこにでもいる子どもたちに見えたし、実際そうなのだろうと思う。それはこの施設で、温かく育っているからだと感じた。歌のプレゼントは感動して、涙をこらえるのが大変だった。

箸ピー対決では、最後チーム関係なく応援していて、短い時間ではあったが、1 つになれたように感じた。今回、本当に来てよかったと思う。

（令和 5 年 5 月 10 日発行　月刊「円福」512 号付録）

令和５年度　あおぞらホーム方針

あおぞらホーム長　冨沢正樹

今年度は、新たな入所やまごころホームからの児童の移動があり、総勢 20 名の児童でスタートしました。

今年度のあおぞらホームのテーマは、「おもいやり」と「おもいきり」を持って仕事しよう！です。

私は子ども達を養育する上で「自分で気づくこと」を最も重要な事と考えています。遊びの中、ケンカの中、集団生活の中、今年はいつも以上に絶対に色んな事が起きます。しかし、それを自己理解を深めさせる「チャンスの時」と捉えると不安は無くなり、むしろワクワクしてきます。

この仕事をしていると、無意識に子ども達の最終ゴールを「落ち着く事」に設定してしまいます。だから、私達の対応も「落ち着かせる事、反発させない事」を中心に指導したり、逆に見て見ぬふりしてしまいます。

そして何より、落ち着かせる事ばかり考えると色んなことが不安になります。しかし、私達の目標は落ち着かせる事ではなく、自立の力をつける事です。だから状況が変わっても、今年もあおぞら伝統の「自由にのびのび(心の解放)」と「揉め事(からの解決)」を繰り返す中で、自分で気づける子供を育てて行く！そういう気持ちを持つ事が大事です。

もう１つ大事な気持ちがあります。それは、今までいろんな状況を乗り越えてきて、私達職員が相当レベルアップして、だから新たな難しい事も引き受けられるようになって、それが今年度なのだという気持ちです。「まとめあげる力(実力)」がついて「新たな課題(刺激)」を受け入れる。この繰り返しが自分達や子ども達をどちらも成長させてくれます。

ここでテーマの話に戻ります。この状況を悲観的に捉えていると、「おもいやり」の心を忘れて、プンスカ、プンスカ怒ってばかりの関わりになってしまいます。また、「おもいきり」を失くして、中途半端な遊びが増えたり、子供が主導権を握ったわがままな生活になったり、自立の力からはどんどん離れて行ってしまいます。

「自立の力」には、職員との「信頼関係」が必要不可欠です。それが子どもの意欲と希望につながるからです。そして、「信頼関係」には「おもいやり」と「おもいきり」が必要不可欠です。あと愛情ですね。

繰り返しになりますが、「おもいやり」と「おもいきり」を失くさない為に、まずはこの状況をプラスに考える事がとても大事です。

その上で、以下をあおぞらホーム長の方針としました。

１，(これまで通り)子供とたくさん自然遊びをします。

あおぞらホームの真骨頂です。今年もたくさん山や川へ出かけ、思いっきり体を動かして、子供の豊かな心を育てます。

２，ホーム全体の活動と年代別の活動を明確にします。
目指す所は「下から上までみんな仲良しのホーム」ですが、今年度はすぐには難しそうです。だから(小学生)(中 1，2)(中 3，高校生)のグループで動かしていき、自然体でのびのび過ごせる事を大事にしつつ、徐々にホーム全体での活動に移行していきたいです。

３，子供から言われる前にやりましょう。
安心感や満足感の話です。必要な物品や手続きや予想されるつまずきに対して、どんどん先回りしてやってあげると子供はとっても喜び信頼してくれます。言われてからやるのとは全然違います。行事も準備や下見がしっかりしていると子供の満足感が違います。また、職員間でも積極的に仕事をしてもらえると、なんか嬉しいです。

４，いい事はずっと続けていきます。
朝の雑巾がけや廊下の学習スペースや自治会。新たに取り入れ始めた事でここまで続けてこれた事は、これからもずっとやっていきます。そして、今年も色んなアイディアを出して、子ども達の力になる事や褒めてあげられるポイントを意図的に作り出していきます。

５，担当児童との絆を作っていく事に努力します。
担当に限らずどの子も協力して見ていくというのが毎年の方針でしたが、あえて今年度は担当が全面に出て、子どもにとって一番安心できる相手が担当の先生といわれるくらいを目指して欲しいです。ただし、囲ってはいけません。みんなで子どもの様子を共有し、「どの先生も好きだけど、担当の先生が一番」となるのが一番いいです。

６，服装、所作、言葉使い、ボリューム、表情を気をつけます。
子どもは先生達の事を本当によく見ています。いつもそれを意識して不信感を持たれないように気をつけて仕事していきます。

以上、年度の初めにホームの先生方にお願いした事を「おもいやり５月号」に載せさせて頂きました。

ホームの先生方と一致団結して、子ども達により良い養育ができるチームになっていきたいと思います。

令和５年度　まごころホーム長方針

まごころホーム長　石崎早織

今年度まごころホームに３名の先生を迎え、児童９名職員９名の体制でスタートします。正直こんなに児童が少ないスタートは初めてです。しかし、少人数だからこそ一人一人に目が届きやすく細かな支援もできるチャンスだと思っています。又先生方も業務や児童対応に少しずつ慣れていけるようホーム職員で支えながら１年間頑張りたいと思います。また特に今年度力を入れたいことは３つあります。

① 職員の役割とは何かを考える。
この仕事は子どもたちの生活の支援を行いますが、ただ身の回りのお世話をしていればいいわけでもなく、悪い事をしたら注意するだけの人でもありません。日々支援をしていく中で子どもたちにどうなってもらいたいか、を考えることがとても大事だと思っています。昨年は目の前のことばかりにとらわれてしまうことが多かったので、今年度はホーム職員と話し合う時間を大切にしていきたいと思います。ホーム職員がどんな気持ちで子どもたちの養育を行っているのか、又どんな風に子どもたちに成長してほしいのか、などもっともっと話し合いながら同じ方向性で同じ思いで子どもたちの支援を行えるようにしていきたいと思います。

② ホーム行事を活性化させる。
毎年休日や長期休みの過ごし方に課題を感じています。子ども達が心を開放し活発に活動できる機会を増やし、リフレッシュできる時間を増やしていきたいです。また職員も子どもと全力で関わり楽しい時間を共有しながら信頼関係を築くきっかけになるようにしていきたいです。

③ 環境整備を徹底する。
昨年度を振り返ると、使ったものを片付けない、部屋の電気がつけっぱなし、部屋が散らかっていてもすぐにきれいにしない、トイレのスリッパが乱れているのにそのまま、など反省点がいくつかあります。これは子どもだけでなく職員も同じです。部屋が乱れていれば生活も乱れていきます。子どもの生活が乱れればどんなことが起きるのか。常に危機感を持ちながら業務にあたることと子ども達が生活しやすいように、ホーム内の環境整備には特に力を入れていきたいです。

この３つはとても当たり前のことですが、当たり前だからこそもう一度原点に戻りまごころホームが良いホームになっていくよう先生方と協力していきたいと思います。

１年間よろしくお願いします。

施設見学会

あおぞらホーム　藤原京平

４月 30 日に愛育園では、施設見学会を行いました。今回も多くの学生さんに参加して頂き、全体会での園長先生と現場の職員の話や交流会で実際に子どもたちと交流することを通して、愛育園で生活する子どもたちの様子や愛育園での養育について、知ってもらう

良い機会になったと思います。私も今年で２年目となる現場の職員として、入職からの１年間で感じたことや学んだことをお話させていただきました。

また、子どもたちも練習してきた歌の発表をしたり、学生さんと一緒に箸ピーの団体戦をしたりと楽しい時間を過ごすことができ、素晴らしい交流会になりました。

今回の施設見学会を通して、学生の皆さんには児童養護施設、そして円福寺愛育園に興味を持っていただけたら嬉しく思います。お越しいただいた学生の皆さんは、本当にありがとうございました。

中学に入学して

あおぞらホーム　石龍成己

桜の木も満開になる中、愛育園の新年度が始まりました。あおぞらホームでは、昨年度２名が卒園しましたが、今年度は新たに５名の子が加わり、計 20 名というまれにみる児童の多さでスタートしました。今まで中高生の比率が多いことはありましたが、小学生も計６名いて、低学年がうち半分を占めるので、本当に小さい子から大きい子まで沢山の子がいるのが今年度のあおぞらホームです。中高で入学式を迎える子は、なんと８名もおり、その中で中学校には４名入学しました。良い緊張感を持ったうえで、新学期頑張ってほしいと願っています。それぞれみんな、やりたい部活があるようで、やってみたいなとは思っているようですが、みんな上手くスタートが切れるような状況に立てていません。その中で、H 君が５月よりバスケ部をスタートさせます。小学生の頃からとても興味を持っていて、誕生日プレゼントもバスケットボールにするぐらい、とても興味をもっています。バスケ部は練習がハードと聞いていますので、まだ H 君には耐えうる体力はないかと思いますが、横道にそれることなく、じっくり成長していってくれたらと思います。みんながみんな１年間必死になって勉強したり活動したりして良かったなと思えるよう、今以上にたくさん関わりを持って支えていけたらと思います。

高校に入学して

あおぞらホーム　畔上裕吾

４月よりあおぞらホームでは新たに４名が高校に進学しました。それぞれが別々の高校へと進学し、高校生活がスタートしています。４名のうち、S くん、R くん、Y くんは中学校１年生時からみているのですが、気がつけば私の身長を追い越し、声変わりも始まり、高校の制服に身を包み逞しく、凛々しい姿にとても成長を感じています。勉強に部活動に励む日々を送っていますが、高校生は中学生とは異なり、義務教育課程を終えて大人としての一歩を踏み始めた段階にあるかと思います。高校生としての自覚をしっかりと持ち、高校生活を謳歌して欲しいです。

愛育園の職員になって

まごころホーム　南澤夏樹

４ 月から愛育園の職員としての新しい生活が始まり、１ ヶ月経とうとしていることに時の流れの早さを感じています。

愛育園での日々の生活は新しい発見の連続で毎日が新鮮です。子ども達の姿から感動や温かさをたくさん感じています。それと同じくらい子ども達との関わりや、自身の職員としての姿に悩むこともあります。「関わる」ということは非常に難しく、あの場面では何が良かったのかと振り返ることばかりです。それでも、子ども達が「こんなことがあった」「これが好き」など話してくれた時の喜びはとても大きいです。慣れないこともありますが、先輩先生方の親身な指導のおかげでたくさん学んで考える環境にいられることを嬉しく思います。色々なことがありますが、先のことを見据えて広い視野で考えることで、チャンスにつながると信じて日々を過ごしています。

これから様々な行事があり、愛育園のみなさんと楽しいことや嬉しいことを体験して一緒に思い出を作れると思うとワクワクします。行事もそうですが日々の生活の中で子ども達とたくさん話して一人ひとりをよく知り、教わるという姿勢を大切にして自分自身ができることを実践していきたいです。

愛育園の職員になって

まごころホーム　　所美侑

４ 月から愛育園の職員になりました所美侑と申します。愛育園の職員となり１か月が経ちました。最初は分からないことの連続で、日々の日課や業務に慣れることに必死になっておりあっという間の１か月でした。入職する前は職員として受け入れてもらえるか不安や緊張がありましたが、子ども達や職員の方々が温かく迎え入れて下さり、改めてこの場所で頑張っていきたいと思いました。実際に子ども達と関わっていく中で難しいと感じること、うまくいかないことは多く、今も日々悩みながら過ごしています。しかし少しずつですが子ども達との会話が増えてきて、徐々に関係が深まってきているのではないかと感じます。

そして今後は子ども達をよく知ることを第一の目標として日々過ごしていきたいと思っています。さまざまな行事や日々の関わりの中で子ども達一人ひとりをよく見て、どのような子なのか知っていきたいです。その上で良い関係を築けるよう子ども達から学んでいきたいと思います。

まだまだ未熟な部分が多いですが、愛育園の職員の一員としての自覚を持ち日々精進していき

たいと思います。よろしくお願いいたします。

愛育園の職員になって

まごころホーム　伊藤彩

愛育園に入職して約一か月が経とうとしています。右も左も分からず飛び込んだ愛育園で過ごす日々は驚き、戸惑い、圧倒される怒涛の日々であっという間にすぎていきました。そして、それは学びにあふれた一か月間でもありました。様々な感情であふれていて、考えたこと、得た学びや気づきは山のようでノートに蓄積されていきました。

園長先生がおっしゃっていた「一緒にいるということ」それはどんなことなのか日々模索していました。せっかちな私はどうしても「目の前の子どもを何とかしなきゃ」と思ってしまい、目の前のその子の表情、言動、その子が今どんな状態なのかを理解しようとすることをおろそかにしてしまっていたことに気が付きました。何かアクションをしたいと思う時でもぐっとこらえて、待つ、子どもを観察して理解することに努めると自分が今何をするべきか分かってくるという感覚がありました。そして楽しい時、嬉しい時、悲しい時、どんな時も一緒に子どもたちと過ごすことがとても大切であり子どもたちにとってもとても大きいことであると気が付きました。「理解しようとすること、見ること、一緒にいること」はとてつもない忍耐が必要とされることで、まだまだ悩むこと、失敗することも多くあります。この仕事は正解が決まっているわけではなく、悩む、思考する日々ですが、それこそが必要で自然なあり方であるとも感じています。

たくさんの先輩職員の方々に支えられて、なんとかこの一か月を乗り切ることができました。これからも目の前の子どもたち、先輩職員の方々から日々学び続け、そして自身でたくさん悩み、考え続けていきたいと思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。

愛育園の職員になって

あおぞらホーム　増田秀典

今年度から愛育園の職員になりました増田と申します。園の職員になってから早１か月が経とうとしていますが、まだまだ分からないことだらけで毎回先輩の先生方に１つ１つ教わりながら日々過ごしております。私自身これまで学校関係の職場に務めていたこともあり、学校現場の子どもたちの様子を見たり一緒に活動をしたりするなどの経験はありましたが、衣食住を子どもたちと共にしていくことや色んな課題を持った子たちと向き合っていくことの難しさを痛感しています。

それでも、子どもたちは日々成長しその過程の中で自分がその支援に携わり、自分自身の成長にもつなげることができるこの職場が好きなんだなとこの１か月を通して思いました。とりあえず今の目標は、子どもたちと仲良くなって一人一人のことをよく知る所から頑張っていきたいと思います。まだまだ未熟ではありますが、今後ともよろしくお願い致します。

あおぞらホームだより

あおぞらホーム　山田忍

新年度が始まりあっというまに一か月がたちました。あおぞらホームでは子供たちの人数もグッと増え今までの環境とはがらりと違う様子になりました、小学生は一時保護の子を含めて７人、中高生は１４人という大所帯になりました。中高生用のＴＶルームでは今までの机やソファを取り払い、大きなテーブルを導入したり、学習場所の確保、また限られた人数の職員での対応でもあり、まさに上を下への大騒ぎです。あっちも見なきゃ、こっちも見なきゃと自分自身慌てふためく中でも子供たちは大きなトラブルもなく落ち着いた日々を過ごしているように感じます。こちらが勝手に慌てているだけで子供たちは「やるときにはしっかりやらなきゃ」とそれぞれが思っているのだと思います。子どもたちに「日々落ち着いて過ごそう」と言っている割には自分は余裕がなくなってもいるという事にもなり、自分自身も日々落ち着いて過ごそうと思っています。そして、今年度も沢山の行事が計画されており、子どもたちもとても楽しみにしています。まず、ゴールデンウィークに今年度一発目の行事「第２回善光寺ウォーキング大会」が開催されます。様々な行事がある中で一番のスタートになる行事の為、何としてでも大成功に収め、今年度行事のスタートダッシュをばっちり決めたいと思っています。昨年の行事はどの行事も子どもたち自身がとても前向きに取り組んだ結果すべての行事が大成功に終わりました。子どもたちと共に昨年と比べてすべての行事が昨年を上回るものにしていこう！と今からワクワクしております。

まごころホームだより

まごころホーム　倉石朱莉

気温の変化が激しい季節ですが、児童たちは元気に過ごしています。今年度は新任職員を３人迎え、新しい体制となり、スタートしました。

高校に入学した児童も３人おり、新品の制服に身を包み、それぞれの新天地で元気に頑張ってくれています。会話の中で学校の話など聞けることを、とてもうれしく思います。それぞれの夢や目標に向かって精一杯頑張れるように、こちらもたくさんサポートしていきたいと思います。

そして、今年度は卒園を控えている児童が１人、受験を控えている児童が３人おり、児童にとっても、職員にとっても大切な、そして大変な年度となることかと思います。職員・児童全員で協力し、昨年度以上に素敵な一年間にしていきたいと思います。

調理室だより

栄養士兼調理員　内山さくら

今年は、お弁当を持っていく高校生が１０人います。私が勤め始めてからお弁当の数が一番多いです。平日は高校生の女の子が朝５時からお弁当作りのお手伝いに来てくれます。卵焼きを焼いたり、主菜のおかずを作ったり、副菜の和え物に味付けをしてくれたりします。手際のいい子は１時間もかからず終了していました。朝５時に間に合うように早起きをし、朝のお参りに間に合うようお弁当作りをして、本当にすごいと思います。お弁当メニューも私が担当していますが、来週のお弁当にオムライスを入れました。すると、高校１年生のＭさんが「来週オムライスじゃん！ありがとう」と言ってくれました。私はその言葉が嬉しく、今年は昨年よりもっとレベルアップしたお弁当メニューを考えたいと思いました。

今年の目標は、子どもたちの気持ちが少し昂ることをしていこうと考えています。なぜこの目標かというと、以前ある先生とお話をした時に、その先生は買い物をするときに『自分の気持ちが昂るものを買っている』とおっしゃっていました。私はそれがすごくいい判断基準だと感じました。そしてこの仕事に通ずると思いました。３時のおやつで『市販のお菓子』という日でも、今日のおやつなにかな？と楽しみにしてくれています。期間限定のお菓子や味が違うお菓子も出して、子どもたちの気持ちが少し昂ってくれればいいなと思っています。そして、日々の献立も調理の先生方と協力して子どもたちが喜ぶ献立作りに励んでいきます。

４月は４人の子が誕生日を迎えました。

Ｈさん：オムライス、カリカリポテト、カプレーゼ、ストロベリーチーズケーキ
Ｕさん：カレーチーズドリア、鶏の唐揚げ、ポテトチップスサラダ、ヨーグルトケーキ
Ｓさん：明太クリームパスタ、ハッシュドポテト、鶏ささみのサラダ、アップルパイ

Ｓくん：醤油ラーメン、揚げ餃子、マカロニサラダ、フルーツポンチ